



戦後80年、戦争をどう伝えるか？



8月23日、西部支部がなんば市民学習センターで平和教育学習会を開催しました。講師に新聞うずみ火編集長の矢野宏さんをお招きし、主にアジア・太平洋戦争について語っていただきました。

開戦に踏み切ったときの社会状況、日米の軍事力の差、大手新聞が報道してきた内容、大阪

大空襲の時の被害のようす、塗炭の苦しみであった人々の暮らしについて、戦争体験者から直接取材された「生の声」を参加者に伝えていただきました。伊賀孝子さんが戦争体験を動画に収録した二か月後に亡くなられたことに触れられ、「戦争を体験された方々が次々と鬼籍に入られて、このままでは体験が風化してしまう。体験者の記憶を記録に残し、戦争の愚かさと平和の大切さを語り継いでいきたい。小さな火を灯し続けていきたい」、また「私たちは忘れてはいけません。私たちの隣には80年間苦しんでいる人たちもいるということ」と矢野さん。参加者一同、この考え方に共感し、今後の平和学習に必ず活かしたいとの声がたくさん聞かれました。以下は感想です。（☆各分会に一部ずつ講演の抄録を同封していますので、興味ある方はご覧ください！）

- ・私の母は「女学校」時代、焼夷弾が自分のすぐ後ろに落とされた話をしてくれたことがありました。女学校時代には大阪の砲兵工廠で、風船爆弾を作っていたそうです。もっといろいろな話を聞かせてもらっておいたらよかったと、今になって思いました。
- ・証言者のお話で必ず仰っておられたのが、「戦争は絶対やってはいけない」ということ。当たり前のことなのでしょうが、本当に実感として思ったことです。これを受けて、子どもたちにどう伝えていけるのかということを考えています。
- ・大やけどを負った小さな体で、軍人の五か条をどんな気持ちで声に出したのか。弟さんがお姉さんのために最期に「おじちゃん、お水～」と言ってくれた。そんな小さな命が助け合おうとしてるのに、なんで戦争なんかしたんやろと怒りも出ます。

性暴力・戦争・差別に立ち向かう

女性部学習会

In 夏休み

7月26日、たかつガーデンにて、大阪教組女性部夏期学習会が開催されました。講師は、全国初の「性暴力根絶条例」制定に尽力した堤かなめさん（元衆議院議員）。のびのびと育った学生時代から、就職先で当時まだ色濃かった「男性社会」に疑問を抱き、大学での学び直しを経て社会的弱者支援のための「アジア女性センター」を設立しました。2001年DV防止法ができた時、警察や行政の態度がコロッと変わったことから「立法」は大事と実感しました。政治を変えなければ社会は変わらないとの思いから福岡県議会議員となったときに条例を制定させました。誰も性暴力されない、しない世の中になるためにも、「生命（いのち）の安全教育」の必要性を再認識しました。



8月1日、日本教育会館にて、母と女性教職員の会全国集会が開催されました。全体会は、「国境なき医師団」看護師の白川優子さんによる講演「紛争地に生きる人々の声」でした。ある紛争地で一人の子どもが手術後に亡くなり、執刀外科医と麻酔科医の間がぎくしゃくしたことがありました。その子の命がなくなったのは、いずれかの医師たちのせいではありません。まぎれもなく戦争をやめない、続けている国々や地域が今もあるからです。白川さんは現在、小学生や看護師を対象に複数の媒体で啓発・広報活動にも力を入れています。「家族や仲間と安心して笑顔で暮らす」というささやかな願いが全ての人にとって当たり前になることをあらためて願いました。

8月2日、日本教育会館において、日教組・両性の自立と平等をめざす教育研究会

が開催されました。全体会講演は「今こそ知りたい！人権とジェンダー平等に基づく包括的性教育とその実践」の演題で、福田和子さん（#なんでないのプロジェクト代表／東京大学特任研究員）のお話の後、内海早苗さん（教育総研しが）をゲストにした「教育現場の実践から」をテーマにしたトークセッションがありました。包括的性教育に関しては、女性差別撤廃委員会（CEDAW）から、日本は不十分であるとして、適切に学校教育に組み込まれることが勧告されています。命と人権が守られるために包括的性教育がいかに重要かを痛感しました。



たのしい教室「エイサー講習会」

7/28(月)
@平尾小学校



7月28日、平尾小学校にて「エイサー講習会」が開催されました。オープニングでは大正沖縄子どもエイサー団の皆さんによる模範演舞があり、子どもたちの元気な掛け声と独特のリズム感、演舞の迫力にすっかり魅了されました。

次に講師の安川勝道さんより、エイサーについての説明がありました。エイサーは沖縄の旧盆に行われる伝統芸能で、先祖の魂を迎え、送り出すための踊りです。念仏を唱えながら踊るスタイルもありましたが、時代とともに民謡や太鼓が加わって、今では地域ごとの青年会が「道ジュネー」と呼ばれる練り歩きをしながら演舞を行う、沖縄の夏の風物詩となっています。

実技講習では、エイサーの基本的な動きと、「花ぬ風車」「南嶽節」「唐船ドーイ」などの代表的な曲を安川さんの模範演技を見本に、反復しながら学んでいきました。

時間と共に参加者がたたくパーランクの音色が一つになり、エネルギッシュな空間が出現！気持ちの良い汗をかくことができました。「エイサーのことをきっかけに沖縄の文化や風土について学ぶきっかけにしてほしい」と安川さんが締めくくられました。



南部支部「わいわいパーティ」に116人！！



8月22日、南部支部毎年恒例のわいわいパーティをあべの楓林閣ビアガーデンで行いました。とても暑い日が続く中ですが、この日は過ごしやすく、毎年恒例(?)の大雨もなく、気持ちよい気候の中で開催することができました。夏休み最終の金曜日という比較的集まりやすい日程で開催することができたので、開始時間前からたくさんの分会のみなさんが集まっていただきました。夏休みのことや2学期からのことで会話がはずんでいました。また今回は各分会、少数の分会員参加が多かったのですが、各分会の知り合い同士が一緒になって話をする中での会話となり交流の場が広がっていきました。あっといふ間の3時間、2学期に向けて活力となるパーティになりました。参加いただいた

たくさんの分会の方々どうもありがとうございました。

== 文科省 2026年度概算要求 ==

◇文教関係全体予算について

4兆5,083億円+事項要求(+2,801億円)

○義務教育費国庫負担金

要求額：1兆6,504億円(+294億円)

3年間で中学校の35人学級化を見越している。

①教職員定数の改善

「新たな「定数改善計画」」 9,214人【29,621人】 【】は26~28年度の改善総数

- ・中学校における指導体制の充実(35人学級) 5,800人【17,400人】
- ・小学校教科担任制の計画的な推進 990人【3,960人】
- ・いじめ・不登校対応等のための体制整備 1,897人【6,682人】
- ・多様な教育課題等に対応するための基礎定数の充実 527人【1,579人】

②教師の処遇改善 161億円

○主務教諭の創設(26年4月～) 月額6,000円

教諭と主幹教諭の間に新たな級を創設し、教諭よりも高い処遇とする。

○教職調整額の改善(27年1月～) 5%→6%

※教職調整額の改善とあわせ、管理職の本給も改善

○部活動指導手当の見直し(26年4月～)

労働強化ではなく処遇改善に向けて取り組みます。

③その他

○補習等のための指導員等派遣事業(国の補助率1/3) 140億円(+24億円)

・教員業務支援員(スクール・サポート・スタッフ)の配置 30,900人(+2,800人)

・副校長・教頭マネジメント支援員の配置 1,600人(+300人)

・学習指導員等の配置 9,200人(同数)

○誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校・いじめ対策等の推進

118億円(+24億円)

・校内教育支援センター支援員の配置拡充 5,000校(+3,000校)

・スクールカウンセラー 11,800校(+500校) 週8時間

○GIGAスクール構想の更なる推進と学校DXの加速

・学習指導要領改訂を見据えた情報活用能力の抜本的な向上 8億円(新規)

・GIGAスクール構想支援体制整備事業 37億円(+32億円)

・GIGAスクール構想の推進～1人1台端末の着実な更新～ 120億円+事項要求

○部活動の地域展開等の全国的な実施

44億円+事項要求